

コミュニティと誇りが
築き上げた
総合芸術

八王子の

ひきやま

『曳山』の魅力語る

八王子の夏の風物詩「八王子まつり」は、江戸時代から続く関東屈指の山車まつり。美しい彫刻が施された山車は、動く芸術品と称されることもあるほど、その造形や歴史一つひとつに魅力が詰まっています。地元の神社に継承される山車の文化と変遷を研究し、社寺建築への造詣も深い、八王子まつり専門委員の相原悦夫さんに見どころを伺いました。

— 八王子まつりが現在のかたちに至った歴史を教えてください

山車祭りの発祥は江戸時代に遡ります。当時八王子は甲州街道と日光街道が交差する宿場町として栄えていました。江戸に影響を受けた華やかな山車が多く伝わっているのは、街の規模が大きく、豊かだった証です。戦禍で焼失してしまった山車も

ありましたが、町会のコミュニティ

は失われませんでした。再建や復元を経て、現在でも例祭と山車の文化が引き継がれているのです。八王子まつりのルーツは、昭和30年からの町村合併後、昭和36年に開催された第一回八王子市民祭です。新旧の住民の心をつなぐコミュニティづくり

— 相原さんが社寺建築や山車に興味を持ったきっかけは？

多賀神社の参道沿いに私の生家があり、氏子として幼いころから神社の行事や文化に触れて育ちました。山車祭りには囃子方として参加するなど、山車は身近な存在でした。その後歴史に興味を持ち、大学卒業後の昭和40年代初めに、全国の山車祭りの調査を始めたのが、山車研究の出発点です。調査の中で八王子市史を調べたところ、地元で伝わる例祭や社寺の歴史についてほとんど記述がなかったのです。ならば自分が、と独自に調査を開始しました。

— 山車を鑑賞する際の注目ポイントを教えてください

山車が一堂に会する八王子まつりでは、江戸後期、明治、大正など、山車の変遷を辿ることができます。江戸後期から明治中期にかけては、高さのある台に人形を乗せた「人形山車」が主流でしたが、明治の中期以降は車体に彫刻が施された「彫刻山車」、唐破風が見事な「堂宮形式の山車」が登場します。電線の普及、道路事情など近代化による変化の中で、さまざまな工夫を凝らし進化した、山車の歴史を感じられます。鑑賞の際にはぜひ、好きな雰囲気

八王子まつり
令和6年
8/2 金 - 8/4 日 開催

ひきやま
曳山
とは

山車(だし)の別称。根元的に、「山」は神座を意味し、築山、置山(=固定神座)に対し、曳山は移動神座と位置づけられ、車で山(神座)を曳く様子を「曳山」と言う。

— 山車は、総合芸術なんです。
だから、私も社会学の研究に
留まっていられなかった。
〈相原悦夫〉



相原悦夫(あいはらえつお)

昭和15(1940)年、八王子市生まれ。八王子市文化財保護審議会会長。八王子まつり専門委員。著書は、「八王子の曳山祭」「八王子の曳山彫刻」(彫刻師佐藤光重)など多数。八王子まつりでは、J: COMテレビの特番で解説を25年務めた。

山車が一堂に会する八王子まつりでは、江戸後期、明治、大正など、山車の変遷を辿ることができます。江戸後期から明治中期にかけては、高さのある台に人形を乗せた「人形山車」が主流でしたが、明治の中期以降は車体に彫刻が施された「彫刻山車」、唐破風が見事な「堂宮形式の山車」が登場します。電線の普及、道路事情など近代化による変化の中で、さまざまな工夫を凝らし進化した、山車の歴史を感じられます。鑑賞の際にはぜひ、好きな雰囲気

インタビュー全編を
ホームページにて
公開中!

掲載しきれなかった
貴重なお話をたっぷり
と読むことができます。
ぜひご覧ください!



1. 著書の写真撮影や挿絵も相原さんが手掛けた 2. 力強くも細部まで美しい彫刻が施された山車は、一台ごとに物語が宿る